長久小学校（島根県大田市）
大正12年築・平成元年鉄筋化・撮影：昭和62年

今からそう遠くない昔、学校のほとんどは木造だった。使い込まれ、飴色に光った階段の手摺り。駆け回るたびにギシギシと音を立てた廊下。夕陽で真っ赤に染まった放課後の校舎に、初めて感じたセンチメンタル…。自分の中に眠っていた、豊かで温かな記憶を鮮やかに蘇らせる木造校舎。しかし、その木造校舎は、老朽化、安全面での配慮を理由に、次々に姿を消している。

理科室の人体模型や実験道具にワクワクし、小さな科学者気分で試験管を握った少年時代。そこにいる全ての人達の知的好奇心や冒険心を刺激してくれる空間…学校。全てがキラキラ輝いていた、あの頃の様に、弊社のカタログを通して自分のための時間を取り戻して欲しい、そんな思いで誕生したのが本誌「道具の學校」である。

私達の身近な存在である学校もまた、後世に残したい歴史的建造物である、と考える当編集部は、消えゆく木造校舎の写真を撮り続けている「木造校舎の思い出」の著者、芦澤明子さんのご協力を得て、日本に存在していた、または、現存している木造校舎を紹介し、校舎の保存や、廃校になった校舎の有効活用等についても、読者の皆さんと考えてみたいと思っている。

記念すべき第一回目は、その芦澤明子さんを迎えて、木造校舎への思いや、撮影時のエピソードなどをお聞きした。

こんな世界があったんだ……

―芦澤さん、映画カメラマンをやりながら、写真家でもあるわけですが、その違いは？

芦澤 映画って、団体行動でしょ、経費も莫大にかかるし。だから天気まちなんか、思うようにやれない。でも、写真は自分の好きなように撮れる。単独行動で、自由で。

―なるほど。でも単独だと、やりにくい面もあったでしょうね。

芦澤 はい、広島の郷野小学校へ行ったときのことです。山あいで、川がそばにあるので霧が深くて、なかなか全景が撮れない。で、天気待ちで三日もねばった。校庭の片隅で。

―変に思われなかったですか？

芦澤 ええ、きっと。でも校長先生が朝礼をなさって、あそこにおられる女の人は別に怪しい人じゃないって（笑）。一枚のいい写真を撮るのでも、ああして頑張る、君たちも見習いなさいって。で三日目の朝、一面の霧の中から朝日を浴びた校舎が姿を見せたときは、感動でした。

―それはよかったですね。天気待ちじゃ確かに単独の方が有利。この遷喬小学校の葦の背景、入道雲がすごい。建物の古めかしさとマッチして…。でも内部を撮るとき、光の回り具合が思うにまかせないのでは。

芦澤 レフ係もいないわけだし。土門拳さんの助手さんは氷の浮かぶ沼に肩まで浸かってカメラを乗せた舟を支えたそうですし…。

芦澤 あ、それならいます。印刷技師長さんです。実に心得てくれる人に恵まれています。ハイキーな窓側を抑え奥のローキーな部分を明るい色調に整えてくれて。

―ということは、あ、この十神小学校の講堂、照明なしでも光が均等な写真…。あ、これもですね。

芦澤 はい、じつは一枚ずつ注文をつけているんです。

―なるほど。このネガの撮影はどんなカメラで？

芦澤 全部ハッセルブラッドのセミ版で撮りました。リバーサルフィルムで。

―だからここまで伸ばしても粒子が荒れないんだ。本題に入ります。芦澤さんの写真集を手にしてまず感心するのは、撮り方がじつにあったかいですね。子供たちの歓声やはだはだ駆ける足音が聞こえて来そうな。職員室だって、先生の心配りがどの学校にもあって。

芦澤 ええ、傘やモップや運動靴や・・島根県隠岐諸島の西郷小学校には「へっつい」さんも薬罐や石炭ストーブまでありました。建築は昭和十七年、撮影が昭和六二年。でも惜しいことに、平成元年取り壊されて鉄筋化しました。

―惜しいですね！　木造校舎は火災の危険さえしっかり守れば、年数を経るに連れてますます強固になる。だから修復すればまだまだ使えるんですよね。

芦澤 その通りですが、取り壊しになった小学校は実に多い。

―バブルの最盛期に法律論だの危険建築に指定するだのの名目で、住民の思い出もろとも文化財を消し去る。もったいない！芦澤さんもそんな気持ち、起こらないですか？

芦澤 起こりますよ、わたしだって！　もう取り壊しちゃった学校は、島根県だけでも、大田市の長久小学校、安来市の十神小学校、松江市の朝日小学校、第四中学校、本庄中学校、秋鹿小学校・・と数え上げればきりがないほどある。秋鹿小学校など、解体直前でも、窓の開閉などいたってスムーズで、「まだワシは使えるぞ」という囁きが聞こえてくるようでした。

―歴史の浅いアメリカでさえ、１００年以上前の独立戦争当時の古い民家の木造建造

▲ぞうきんがけ　佐原小学校（千葉県佐原市）
昭和10年築　平成元年鉄筋化
撮影：昭和63年

郷野小学校（広島県吉田町）
昭和10年築・現在も使用中・撮影：平成10年
山あいで、川がそばにあるので霧に悩まされる。
3日間粘り、やっとシャッターを押した思い出の一枚

芦澤　明子（あしざわ　あきこ）
プロフィール
1951年東京生まれ。青山学院大学卒業後、ムービーカメラマンの道へ。1983年に独立。女性のムービーカメラマンの草分け的存在として、多くの映画作品、テレビコマーシャルの撮影を担当している。「HAZAN」(2002)「乱歩地獄」(2005)「LOFT」(2006)など多数。ムービーカメラマンとしての仕事のかたわら、15年以上に渡って全国の消えゆく木造校舎の貴重な記録を写真作品として撮り続けている。